

## 現地を訪問して想うこと

畑 祥恵（1994・産社）

東日本大震災から3年7ヶ月の2014年10月11日に私は初めて東北宮城に来た。

九州に住む人の多くは、東京までは行くけれど、北海道は言ったことがあるけれど、東北には行ったことがないと言う。私もその一人だった。

大学のOBの方が経営されている木の屋 石巻水産さん、笹かまぼこのささ圭さんから大震災当時、その後の復興のお話を伺うことができた。随分ご苦労されて、今も厳しい状況で頑張られていることが伺えた。

被災地区、女川町や名取市閑上地区も訪問させてもらった。

震災以前は家屋があった場所に、今はセイタカアワダチソウが元気に咲いている光景が印象的だった。

震災から3年7ヶ月経って、復興は少しずつ進んでいるように見えた。

現地の方達がどのように新しい町を作っていくのか、3年7ヶ月経っても、まだまだその真最中で頑張られていることを感じた。

このような機会を作ってくれた大学や、宮城県校友会の方々、大学職員の大場さん、クレオヒューマンの方々、参加者校友の方達、ありがとうございました。

一期一会、本当に良い機会と出会いに恵まれました。

東北宮城の魅力を発信していきます。